

令和5年度 京都府立西舞鶴高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（全日制）（最終段階）					
学校経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
<p>「究理 尚志 敬人」の校訓と「努力と友情」の西高精神を教育の柱に据え、めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人を育てる。</p> <p>「究理」真理を求め勉学に努める 「尚志」高い理想を抱きその実現に努める 「敬人」人を敬愛し誠実に生きる</p>		<p>(1) 「総合的な探究の時間」では生徒の主体性やSDGsの視点で提言できる力を育てる実践を行い、一定の成果が見られた。また、舞鶴市や市内企業・高等教育機関等との外部との連携を進めて充実した活動ができ、生徒が地域の一員としての自覚を持つ一助とできた。1人1台端末を活用するため、公開授業や授業アンケートを実施し組織的に授業研究を進めた。今後はさらに外部機関との連携を進め、主体的、対話的で深い学びをさらに充実させていく。</p> <p>(2) 3年生については、組織的な指導体制の整備を図ることで希望進路に応じた丁寧な指導を進めることができ難関大学の合格者が増加するなど、一定の成果がみられた。これまでと同様に、進路指導に必要な情報、指導方法を共有し、1年次では学力の定着と適切な文理選択を図り、2年次では具体的な希望進路を確立させることを大切にしていける。</p> <p>(3) 部活動では、地道に努力する生徒と献身的な教職員の支援により、コロナ禍において必要な注意を払いながら活動を行い近畿大会に出場した生徒もいた。今後も、学業と部活動の両立のための支援を継続していく。また、社会性等を身につけるために学校行事などの特別活動においても積極的な活動を行うとともに、成人年齢の引き下げに伴い、主権者教育を充実していく。</p> <p>(4) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため規模は縮小したが学校祭をはじめ学校行事を実施することができた。生徒会を中心に学校行事の計画を進め、コロナ禍での新たな形を作り上げることができた。挨拶の励行、ボランティア活動の活性化、人権意識の向上、学校生活になじめない生徒への手立てやいじめ・体罰の防止には今後も重点的に取り組む必要がある。</p> <p>(5) 地域社会に貢献し、その期待に応える学校づくりを進めている。ホームページ、西高だより、西高理探だより、新聞広報を通して、中学生や地域の方に本校の教育活動の成果がよくわかるよう情報発信を行った。さらに「地域に開かれた学校づくり」を充実していく必要がある。</p>		<p>【究理】 主体的に学び考える力を育成する ○普通科と理数探究科それぞれの特色を活かした「主体的、対話的で深い学び」を実践し、質の高い探究活動を展開する。 ○ICTを積極的に活用して生徒の主体性を育むことができるよう、授業改善や新たな方策を研究し、質の高い学力と希望進路の実現につなげる。</p> <p>【尚志】 新たな価値を生み出す力を育成する ○「勉強も部活も全部」で切磋琢磨する文武両道の校風のもと、一つ一つの達成感を大切にして生徒の自己有用感・自尊感情を育み、「尚志」に向かわせる。 ○大学や外部機関との連携を一層進めて「社会に開かれた教育課程」の具現化を図るとともに、「未来を展望する力」を育む教育活動を推進する。 ○「18歳成人」を前提に、変化の激しい社会の動向に関心を持ち、主体的に判断し行動できる主権者としての資質を育てる。 ○地域社会から信頼され、小中学生にとっての「あこがれの高校」となるよう、西高生が社会に向けて発信する取組を推進する。</p> <p>【敬人】 多様な人とつながる力を育成する ○日々の挨拶を大切に友誼を深め、多様性と調和を大切にする人権尊重の態度を育む。 ○ICTの積極的な活用を通じて、正しく情報を活用する力を育成する。 ○健康管理と交通安全の啓発と日々の取組を地道に行い、命と安全を守る教育を推進する。</p> <p>○教職員の同僚性を高めて教育の質を向上させ、心身の健康も促進できるよう、職場のOJTと働き方改革を推進する。</p>	
評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	教職員の資質能力を高め、学校全体の教育力の向上を図る。	全教職員が互いに教え合いながら切磋琢磨し、日常的に自己の教科指導力、生徒指導力、業務遂行力を向上させるなど、自立的な人材育成を図るための職場環境作りと研修の場を充実させる。 分掌部長・教科主任を核に、本校の課題に対する共通理解を深め、新たな提言や知恵を結集させて学校運営・教育活動の一層の活性化を図る。	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員で授業を公開及び参観し、切磋琢磨して授業改善に努め研鑽を積むことができた。 ・各分掌の観点から本校の課題についての意見をまとめ、共通理解をはかりスクールポリシーの検討を進めることができた。 ・連絡ツールを利用し情報共有することで、教職員全体で密な連携をとり一丸となって指導に取り組むことができた。 ・地域や大学、各種機関と連携を進めて生徒の参加を促すことで、生徒が地域の一員としての自覚を持つ一助とすることができた。 ・学校の情報発信を定期的に行い、地域や中学校に本校の魅力を伝える機会を創出することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末について、さらに効果的な利用法を研究し授業改善を進めて生徒の学力向上を目指す。 ・「地域に開かれた学校づくり」をさらに推進するための取組を進め、本校の魅力を伝えて中学生から選ばれる学校づくりを行う。 	
	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	生徒には、一段高い目標を持たせ、自己の変容を実感できるよう指導を行う。そのために、主体的・対話的で深い学びや、探究活動を推進し、学力の向上・進路希望の実現・特別活動の充実を図ることで、生徒の生活の自立と学習の自立を促す。 また主権者としての自覚を促すため教科横断的に主権者教育を推進する。地域や高等教育機関との連携をさらに進め、生徒が地域の一員としての意識を持ち自己有用感を高める機会を創造する。 ICTを活用した授業を工夫し効果的な学力向上を目指して研修を推進する。	A		
	学校の取り巻く状況を見据えた学校改革を図る	学校説明会の内容の充実と小・中学校等地域との連携の強化を進める。中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを行う。 本校の教育内容・実践等に関して、ホームページ、西高だより、新聞を使って情報発信し「地域に開かれた学校づくり」を推進する。	B		
	学校の取り巻く危機に対して万全の対策を図る	学校の安全を様々な危機から守るための校内体制を作るとともに、京都府教育委員会や関係機関と密な連携を図る。保護者への連絡をスピーディに行う。	A		
教務部	校務運営	教科指導力向上のための取組	公開授業週間を年間2回実施し、他の教員の授業参観を通じて、お互いの指導力の向上を図る。また、授業アンケートを年間2回実施し、結果をフィードバックして授業改善を図る。	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間を2回実施し、保護者にも参観いただいた。また、授業アンケートについても、年間2回を実施し、授業改善につながることができた。 ・公開授業ではタブレット活用をテーマに設定した。初任者が効果的にタブレットを活用する授業は多くの先生が参観し、活用方法の共有ができた。 ・学期ごとに評価についての分析資料を提示できた。 ・時間割変更にきめ細かく対応し、出張による自習を少なくした。生徒の主体的な学習を促すために来年度のスタディサブリの活用について提案することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 効果的にタブレットを活用する授業を広める必要がある。来年度も公開授業などをうまく活用して、学校全体で研修していきたい。また、今年度はインフルエンザ、コロナなどで急な教員の休みも多く、時間割変更が間に合わないケースもあった。可能な限り急な時間割変更にも対応できるようにしていく。
		ICT機器活用能力の向上のための取組	タブレット端末等を生徒が活用できる授業を増やす。公開授業週間以外でも参観しやすい環境を作り、ICT機器を生徒に活用させる授業を全体に共有する。	B	
		主体的に学び考えるための評価方法の工夫	新学習指導要領に基づく評価方法について、研修を行い、主体的な学びにつながる評価方法について検討する。	B	
		基礎学力充実に向けた取組	学習環境の整備に努め、時間割変更等にきめ細かく対応し、授業を大切にする学校を目指す。スタディサブリを用いた個に応じた学習を支援し、全校生徒、全教員での活用を促す。	B	

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題	
生徒指導部	特別活動	主体的な生徒会活動と活性化	生徒会本部役員・局員、クラス役員を中心に主体的な生徒会活動を通して、各行事や取組の特別活動が活性化し、効果的に実施できるよう支援する。	A	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動・学校行事において、概ねコロナ前の取組み内容を回復、コロナ禍の経験を活かし実施できた。 ・生徒会活動においては、本部役員が中心となり各委員会等も活動が展開された。また、9月の立会演説会では多くの立候補者がたち熱意溢れる演説が展開された。今後も活気ある生徒会本部の活躍が期待される。 ・交通関係では、大きな事故やトラブルも発生していない。今年度も1年生23名の自転車安全利用推進員が加わり、交通安全を呼び掛けを行った。 ・列車でのマナーについて3件苦情があり、ルールの遵守、マナーの向上を呼び掛けている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制服の着用、スカート丈、頭髪等気になる生徒も若干名見られる。引く続き学年と連携し指導を行った。 ・第2回いじめアンケートによりいじめ事象が明らかとなり学年等と協力し対応をした。しかし保護者への連絡・対応という点で課題が見えた。今後も丁寧で細やかに生徒の観察・注意を継続する必要がある。また、「いじめ」を絶対に許さないという毅然とした態度・対応が求められる。 	
	規範意識	生活規律の確立	生徒会役員を中心に挨拶運動を広げ、心のこもった挨拶と適切で他者を思いやる言動ができるように指導する。	B			
			生徒の帰属意識を定着させ、「生徒心得」に沿った校則・マナーを遵守させ、生徒の規範意識を高める。	B			
	安心・安全	安心・安全な学校づくり	自己管理・危機管理を徹底させ、トラブルを未然に防ぐ指導を行う。また自転車安全利用推進員による交通安全指導を実施など交通安全を呼び掛ける。	A			A
いじめ防止	人権意識の高揚といじめの防止	すべての教育活動を通して人権意識を高め、いじめを許さない姿勢を示し未然に防ぐ。事象が生じた場合は、迅速に対応し早期に解決を図る。	B	B			
進路指導部	希望進路の実現	教育相談的機能の強化	進路検討会を中心として、個に応じた指導の手立てを図り、丁寧なケアに努め、教育相談的機能を高める。	A	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3学年部と進路検討会を実施し、各生徒の実態に応じて適切な支援の手立てについて共通認識を図るなど、連携を密にすることができた。国公立大学の総合型・学校推薦型選抜において29名が合格した。 ・大学教員や社会人など学校外の優れた人材を有効に活用し、分野別ガイダンス、模擬授業、土曜活用や学校説明会などを適宜実施することで、生徒の進路探究活動を促すことができた。 ・職員会議などでの模試分析の機会を通じて、学力実態の把握や今後の指導方針の共有に努めた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会をすべての学年に拡大するなど、学年部とのよりいっそうの連携が必要である。 ・進路行事の情報発信として、ホームページの掲載記事の充実にも努めているが、保護者・地域のニーズを意識した更新に努める必要がある。 	
		各種進路ガイダンスの充実	学校内外の人的資源を有効に活用し、各種ガイダンスを強化することを通じて、生徒の内発的動機づけを促し、自尊感情や自己肯定感の向上に繋げる。	A			
		生徒の学力の一層の向上	各種模擬試験を有効に活用し、模試分析や進学課外等を通じて、生徒が未来を見据え理想と現実のギャップを埋める行動を起こせるよう促す。	A			
		「社会人としての自覚」の醸成	就職希望者への丁寧な職業紹介を行うとともに、労働法規に係る学習、社会人マナー実習などの内定後指導を実施し、社会人としての自覚を一層高める。	B			
	指導力向上	指導方法・指導体制の最適化	高大接続改革のなかで変化していく指導方法をセミナーや研修等によって探究し、生徒に速やかに還元できる体制の樹立を図る。	B			B
	信頼される学校づくり	各種情報の適切な発信	本校ホームページを通じて保護者・地域のニーズを意識した情報発信を行うことで、信頼され、選ばれる学校づくりを図る。	B			B
保健部	心身の健康管理	配慮を要する生徒や心身の健康問題を早期発見及び対応できるような支援体制作り	気になる生徒について学年部や教科担当者と連携し共通理解を図る。また、適切な支援を組織的に行う。	A	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談会議を6回（10名）・ケース会議2回（2名）を開催し、学年部と連携をとりスクールカウンセラーやSSWとの共通理解のもとで生徒の支援を積極的に進めた。また、特別支援が必要な生徒に対する進路指導・受験指導を担任と連携して行った。 ・コロナが第5類になって以降も、予防啓発を行い、大きな混乱無く対応した。また、出席停止報告書については、提出義務の体制を整えて、様式も改善した。 ・救急救命講習を実施し、33名の参加があった。来年度以降も、新しい知識、情報を常に理解しておく必要がある。また、学校薬剤師に薬物乱用防止研修をお願いし、全学年で実施した。保健委員会では、ブルーシードプロジェクトというSDGsに関わる取組を新しく始めた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害やLDIについての研修や他校での対応例の共有する。感染状況に応じて、手指消毒やマスクの着用については注意喚起を継続しなければならない。 ・緊急時の対応やAED・担架の設置場所などの周知徹底をしておく必要がある。 	
			スクールカウンセラーや専門機関との連携を図り、支援の方向性に沿い共通理解のもと支援を行う。	A			
		Postコロナ対応・熱中症対策	教職員や生徒への啓発・広報を通じて、予防に努め適切に対応をする。	B			
	Postコロナへ向けての生活様式の変化に生徒がスムーズに対応できるよう支援する。	A					
	教職員研修等	薬物乱用防止、メンタルヘルス、特別支援・LGBTQIに関する研修を実施する。	B	B			
	安心・安全な学校生活	清掃・美化活動の充実・安全管理	校内美化に対する意識を高め、快適な学習環境作りにも努める。また、保健衛生面から安全管理を行う。	B	B		
特色推進部	地域に開かれた学校づくり	広報活動の充実	理数探究科及び普通科の教育内容等の情報や魅力、本校の特徴的な取組等を、高校説明会や学校公開等の機会を通じて中学生・保護者・中学教員向けに効果的に提供する。	B	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験セミナーなど中学生が来校する行事においては、在校生の活躍の場を用意し、本校の魅力がより伝わるように実施した。 ・中学校での学校説明会では、該当中学出身の在校生の頑張りや学年団を中心に情報をもらうことで、魅力発信につなげることができた。 ・図書委員会活動・芸術鑑賞は予定通り行えた。進路受験の際に、読む・書く力が気になる生徒が増える中、日常的に本を読むことの大切さを引き続き呼びかけたい。 ・総合的な探究の時間では、市役所や地元の方にも協力を得ながら活動を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報を行う上で必要な鮮度の良い情報を集めるための、より良い方策を考える必要がある。 ・府立図書館の電子書籍も含む図書資料の利用を促してきたが、なかなか利用は伸びていない。 	
			学校生活における生徒の活躍や学校教育の成果を、ホームページや広報紙等で迅速かつ活き活きと伝える。また、地域の新聞社など情報機関と連携した広報を行っていく。	A			
	新たな価値観を見だし、未来を展望する力を育む	図書館活動の充実	図書委員会活動や各教科との連携等を通じて生徒に図書館の利用を促し、読書活動や探究活動を支援する。その際には、電子書籍も含めて活用する。また、芸術鑑賞会など、生徒の心を豊かにする活動を展開する。	B			
			「総合的な探究の時間」の企画・立案	学年部と協力して普通科の「総合的な探究の時間」の企画・立案を行い、多様な学習活動の実践や地域との連携により「主体的・対話的で深い学び」を実現する。			B

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
推進部 スマートスクール	スマートに学べるICT環境の構築	教員-生徒間での学びのICT化を通じた学力と学習効率の向上	各教科との連携により、授業のICT化を通して学習効率を向上させ、知識・技能だけではなく、学びに向かう力や思考力・判断力・表現力を身に付ける学習や評価が行えるよう支援する。	B	A 【成果】 ・部活動登録、授業評価アンケート返却などのDX化に貢献することができた。 ・ICTを活用した授業の支援や機器トラブルへの対応を行うことができた。また、各教科との連携を取りながら授業支援や事例共有を行うことができた。 【課題】 ・端末およびMicrosoftアカウントのパスワード忘れによるリセット対応は1月22日時点で合計13件であった。今後適切な情報管理を呼びかけていきたい。
	一人一台学習用端末の正しい活用	生徒が安心してICTを使用し、効果的に活用できる環境づくり	1年生の学習用端末の導入および2年生の端末活用の年次進行に伴う学び方や評価の変革に対応するため、教職員間、生徒や保護者との連絡・調整を綿密に行う。また、情報モラルの啓発にも努める。	A	
	教育DXの促進による業務効率の改善	校内ネットワークおよびグループウェア等の整備による教育DXの推進	校内ネットワークおよびグループウェアの整理、利用促進等を通して教育DXの推進を図ることで、業務効率の改善や円滑な情報伝達ができるよう努める。	A	
理数探究科	先進的な理数教育	科学体験行事の充実	3年間の科学体験行事の実施方法や発表方法を見直し、体系的な科学体験行事となるようにする。	B	B 【成果】 ・連携機関の見直しにより新たな連携先の獲得が可能となった。 ・課題研究について、テーマ設定から研究手法、実験データの扱い方や科学的な考え方について個別に指導することで、質の向上を図ることができた。大学から講師を招き、アドバイスをいただくことで生徒のモチベーションを向上させることができた。 ・発表を通じた言語活動について、夏期実習発表会、海の京都サイエンスガーデン、西高サイエンス・デイをはじめとした様々な発表の場を設けることで、多様な他者に対する発表を行うことができた。 【課題】 ・課題研究や各行事の運営や指導について、教職員間の目線合わせや内容の共有をより広く、円滑に行うことができるよう工夫したい。 ・科学コンテストなど、様々な案内を発信することができた。科学の甲子園（8名）、生物学オリンピック（4名）等に参加した。より多くの生徒が主体的に取り組めるよう促していきたい。
		課題研究の充実	テーマ設定の段階から丁寧な指導を行い、スムーズな研究活動ができるよう指導する。評価方法を研究し、指導者間の連携と生徒の活動状況を共有する方法を研究する。また、スーパーサイエンスネットワーク（SSN）京都事業のサイエンスガーデンでの発表も視野に入れた取り組みにする。	B	
		探究活動指導力の向上	大学講師を招いて、教員の意識も高める。パナソニック教育財団2023年度実践研究助成等を活用して、課題設定段階からの生徒への指導力の向上を目指す。	A	
		発表を通じた言語活動の充実	校内・校外の発表会を数多く経験させることにより、口頭発表・ポスター発表・記録集の作成など様々な形態で体験・研究活動を効果的に他人に伝える機会を数多く設ける。	A	
		科学技術コンテスト参加の奨励	各種科学コンテストの情報を効果的に発信し、自主的に科学を学ぶ生徒を育成する。	B	
	希望進路の実現	高大連携の推進	京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都大学フィールド科学教育研究センターとの協力体制を深め、新しい高大連携の在り方を検討する。	B	
	受験指導力の向上	分掌間・教科間連携により、学校全体で取り組む授業力・教科指導力の向上に様々な形で貢献する。	B		
人権教育	人権学習	多様性と調和性を大切にする人権尊重の態度を育み、さまざまな人権問題について正しい認識と問題解決のための行動力を培う。	学年部や各分掌と連携し系統的・計画的に人権学習を推進する。	C	C 【成果】 ・概ね計画に従い、各学年の人権学習が実施できた。 ・今年度は、中舞鶴保幼小中高連絡会がコロナ前と同じ形での実施となり、他校種や中舞鶴地域の方と交流する機会が増え、充実したものとなった。 ・中丹ブロック会議では、意見交流を重ね、他校の取組などを知ることができた。 ・府高人権の会議・研修会を通じて各校の取組や人権課題について学ぶことができた。また、全通合同で人権にかかわる教職員研修を行うことができた。 【課題】 例年同じ講師の方となっており、学年の意向なども含めて講演内容を考える必要がある。
			時代のニーズに応じた学習教材・内容を研究・検討し、手法の工夫・改善に取り組む。	C	
			人権課題の解決の主体としての行動力・実践力を育てる学習を展開する。	C	
	連携	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	学年部・生徒指導部・保健部等と連携し、いじめの防止や困難な条件を持つ生徒の把握・援助に努め、進路保障を図る。	B	
			中舞鶴保幼小中高連絡会等との地域連携を一層深め、就修学の保障に努める。	A	
	研修・研究	全ての教育活動を通じて人権教育に取り組む観点から、人権感覚を日常的に育む。	全教職員が人権教育に対する認識を深め、人権意識の高揚を図る。	B	
研修会等に積極的に参加し、様々な人権課題に対する実践的考察や手法等を身につける。			B		
人権教育全体計画に従って、各教科の授業や取組において人権の視点を踏まえた指導を考察し、展開する。			B		
第1学年部	学習指導	基礎学力の充実を図る。	授業を大切にする意識を涵養し、授業で基礎的な学力をきっちり身につけさせる。また、家庭で学習する習慣の定着に努める。	B	B 【成果】 ・外部講師を招いて模試の振り返りの仕方や模試に向けた勉強の仕方について生徒たちに意識付けを行うことができた。 ・他分掌や1年教科担当の先生方、部活動顧問の先生方と連携を密にとり、様々な事象に対して迅速な対応を行うことができた。 ・SNSの適正な利用についての講演会を実施することにより、情報モラルの遵守に対する意識・理解を少しは高められた。 ・学年だよりを少しでも多く配信することで、保護者の方々へ学校での様子を少しでも多く知ってもらえるようにできた。 【課題】 ・成績不振の生徒が多くいた。基礎・基本の定着がきちんと図れるよう個に応じた粘り強い指導が必要である。 ・電車の利用マナーが悪かった。情報モラルを欠いた行動、事象があった。公共物の利用の仕方について継続した指導が必要である。 ・特定の生徒に対するLINEのグループ外しや誹謗・中傷等、いじめと捉えられる事象が複数起こったため、生徒の人権意識の向上を図っていくことが大きな課題である。
		進路実現に向けての取組を充実させる。	面談等での進路希望の把握に努め、個に応じた適切な指導を行う。模試の案内や進路情報の提供を積極的に行い、個々の進路実現につなげていく。	B	
	生徒指導	基本的な生活習慣を確立させる。	校則や交通ルールなどの生活規範を尊重する態度を育成する。また、提出物等の期限を遵守する態度を育てる。	C	
			ICT機器等の使用について、情報モラルの遵守を徹底する。	B	
		課外活動や行事に積極的に取り組ませる。	部活動や校外活動などの課外活動、学校祭等の行事に積極的に取り組んでいくよう促していく。	B	
	保護者・分掌との連携	保護者や分掌との継続的な連携を図る。	家庭との連携を密にし、家庭での様子や、学校での状況を交流し、生徒が健全な学校生活を過ごせるよう努める。	B	
分掌との連携を密にし、効率よい学年運営ができるようにしていく。			A		

評価領域		項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題
第2学年部	学習指導	基礎学力の充実	授業を中心に基礎的な学力を身につけさせる。	B	B	【成果】 ・研修旅行に全員が参加したように、部活動や学校行事に主体的に取り組む生徒が多かった。 ・学年集会を何度も行ううちに学年集団としてのまとまりができ、1年次よりも生徒同士、生徒と教員の絆が深まった。また、そのことが研修旅行の成功へとつながった。 【課題】 ・学習面では、2学期に一定数の成績不振者がいたが、教科担当者の粘り強い指導や担任の声かけもあり学習に対して前向きに取り組んだ。 ・担任による面談を継続的に行った。次年度に向けて内容を充実させるとともに、学年会等で交流を行い丁寧な進路指導につなげたい。 ・積極的に挨拶を行う生徒を育成することができなかった。
		進路実現に向けての取組の充実	面談や体験学習、総合的な探究の時間などあらゆる教育活動を通して、生徒自身の自己理解を深め、自らの進路実現に向けて意欲的に行動する生徒を育成する。	B		
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	教室美化を徹底させ、よりよい学習環境を作るとともに、積極的に挨拶を行う生徒を育成する。	C		
		課外活動の充実	「勉強も部活も全部。」をスローガンに、何事にも挑戦する生徒を育成する。	B		
ICT指導	ICTを活用した主体的な学び	スタディサプリやiPad等を積極的に活用する生徒を育成する。	B	B		
第3学年部	学習指導	主体的に学び、考える力を育成し、希望進路実現に向けた実戦力を身につけさせる。	教科担当者との連携を密にし、各学級の学習状況や個々の生徒の様子を共有し、特に学習に不安を持つ生徒に対して個人面談を行うなど、丁寧に指導する。	B	B	【成果】 ・進路実現に向けて、日ごろから生徒の学習状況に目を配り、進路指導部や教科担当とも情報を共有したうえで面談を行うことで、生徒一人ひとりへの丁寧なサポートを行うことができた。 ・国公立学校推薦型選抜や総合型選抜に向けて、面接練習や小論文対策等、進路指導部をはじめ各教科の先生方にお世話になり、例年並みの合格者を出すことができた。 ・生徒たちは「公」を尊重した思いやりのある行動を心掛けており、いじめ等の事象は見られなかった。 ・生徒を希望進路に導くため、保護者と連携を密にし、学校と家庭で協力することができた。 【課題】 ・学校推薦型選抜・総合型選抜においては、総合的な探究時間の探究内容が大きなアピールポイントとなるので、進路希望とリンクさせてテーマ設定をすることが大切である。
			模擬試験等を通して自己の実力を把握させつつ、進路情報を提供し、学習意欲を高め、希望進路の実現を図る。	A		
	進路指導	未来を展望する力を育成し、進路実現に向けた取組の充実を図る。	希望進路実現のために、ICT等を効果的に活用して進路に関する情報を提供する。	B		
			将来を見据えた進路目標を持たせるとともに、その把握に努め、個に応じた適切な指導を行う。	B		
生徒指導	他者を尊重する態度を育成する。	集団の中の一人として自覚を持ち、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	B			
		様々な教育活動を通じて、「私」だけを利するのではなく「公」を尊重した思いやりのある行動ができるよう指導する。	A			
保護者との連携	保護者との良好な信頼関係を築く。	保護者面談等を行い、家庭との連携を密にし、家庭の様子や学校での状況を交流し、生徒の指導に活かす。	B			
事務部	教育環境の整備	生徒及び教職員が安全・安心な学校生活を送れるような教育環境を確保する	校舎・施設等の適正な維持管理に努める。また、月に1回程度事務部で施設点検を実施する。さらに他の教職員とも情報共有し、危険箇所の早期発見及び早期対処、修繕計画の作成を行う。	B	B	【成果】 ・定員を確保するためには、広報活動は重要であり、「学校案内」「西高だより」等広報紙の印刷製本費の確保及び中学校等への配布に伴う出張旅費の確保を引き続き行っていきたい。 ・生徒の援護制度(修・就学支援)については、特に大きな混乱もなく、事務を進めることができ、学年部の協力もあり、申請書を全員提出期限内に提出することができた。 【課題】 ・月1回の施設点検が実施できなかった。校舎・施設等の適切な維持管理を教職員と共有し、特に危険箇所については、早期対応に努めていきたいが、予算不足が大きな課題である。 ・会計事務研修会も参加型で開催回数もコロナ前と同様になり、積極的に受講した。しかし、チェック体制が不十分な部分もあり、研修内容を活かし、適切な事務の執行を行っていきたい。
		学校の特色化を進める設備・備品の充実	探究活動や理数教育等特色ある教育活動を進めるため、各分掌と連携をとりながら効果的な予算執行に努める。	B		
	選ばれる学校づくり	広報活動の充実	広報活動を充実させるための予算の確保する。	A		
	修・就学支援	生徒の修・就学支援の充実	保護者・生徒に対する十分な案内周知と丁寧な対応を行い、就学支援金や各種奨学金事務を円滑に実施する。	A		
会計管理	適切な会計事務の執行	会計事務研修に参加するなどし会計事務に関する知識を深め、給与、旅費及び会計事務等の適正な処理に努める。事務遅延が生じないよう主担当・副担当を中心に職員相互の進捗状況のチェックを行う。	B			
学校関係者評価委員会による評価		西舞鶴高校に対する保護者や地域住民の関心は高く、期待も大きい。日々の取り組みを多く広報し、生徒の様子を広く地域に知らしめている点が評価できる。1人1台端末の利活用や18歳成人となる高校生の教育について、授業や活動を工夫・進化させ、生徒の希望進路の実現だけでなく、安心安全の保障された学校を維持して欲しい。また教育活動についての情報をさらに活発に発信することで、地域からの学校理解が高まるようにし、地域の基盤を担う教育機関として一層の高みを目指す教育活動に励んでもらいたい				
次年度に向けた改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・京都府立大学や舞鶴市、市内企業など、外部関係機関との連携をさらに強め、探究的な活動を中心に主体的、対話的で深い学びを深化させる。 ・全学年が1人1台端末を持つことにより、さらに効果的な利用法を研究し授業改善を進めて生徒の学力向上を目指す。 ・「地域に開かれた学校づくり」をさらに推進するための取組を進め、本校の魅力を伝えて中学生から選ばれる学校づくりを行う。 				

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果が得られた） B：ほぼ達成できている（ほぼ目標通りの成果が得られた） C：達成できているとはいえない（成果はあったが、目標に達していない） D：ほとんど達成できていない（ほとんど成果がなかった）